

令和3(2021)年「正覚寺報」2月号

◆ご案内

十都府県のコロナ緊急事態宣言が発出されましたので、今年の初講の開催は見合わせました。しかし、お聴聞の会等のご法座は如来様のお育てに合う大切な営みですので、これから先ご法座は営めるよう念願致しております。

皆様にはどうぞご縁におあい下さいませ。

- ①仏壯お聴聞の会 2月7日(日)20時～
- ②仏婦お聴聞の会 2月16日(火)19時半～
- ③永代経&前坊守十三回忌2月27日(土)
午前10時半～12時(お客僧)田淵幸響布教使

◆初講のご挨拶の趣旨

正覚寺では、御門徒様のご提案で「お聴聞の会」を運営して参りました。目的は「如来様にお会いしお救いに与ること」を実践的に体験することにあります。如来様から本願力回向された「南無阿弥陀佛」をお勧めのままに「称えれば」、直ちに聞こえて下さる「南無阿弥陀佛」こそは如来様のお喚び声だったと頂戴するのです。聞こえて下さるお喚び声をお聞かせに与るとき、信心を賜り如来様にお会いしているのです。その体験的営みをあらゆる角度から支えて戴くのが、当院の組織活動であり年間行事の意義であります。総代様方を初め御門徒の皆様方一人一人が支え合い助け合うのが私達の勤めです。

それでは、今年もご一緒に実践して参りましょう。

◆ご法縁からのお育て

令和二年は、前坊守の里、高島組通安寺から、新住職の御発案により報恩講に不肖、正覚寺住職が出講させて戴いて参りました。

ご法座前の準備では新発意が南米開教区に赴任して以来十年来のお育ての内容を振り返り、何度も見直し、取り纏めさせて戴きました。

準備は当然ですが、驚きはその後です。というのは、出講後も、毎朝の鐘撞き後に、御法話の内容を何度も反芻し慶ばせて戴けたのです。

懐かしいその営みが一段落した頃、住職自身がかつて三十代前半に「教団改革をすすめる会」でご縁を戴いた信楽峻磨先生の「どうしたら阿弥陀佛に出遇えるか」を繙かせて戴きますと、住職自身の先の御法話の内容と同じではないというのに、全くといってよいほどに同じ慶びに恵まれ、爾来、何度も先生のご講話を読ませて戴き深い感動に恵まれたのです。

これは一体どうしたことかと自問自答しましたが、最も首肯できるお答えが「それは、如来様にお会いさせて戴いているからである」というお答えになるのであります。

そうすると、お聴聞の会ご出席の御門徒様も、「御聴聞の究極の目標は、如来様にお会いすることであり、お救いに与っていくことである」と云っても過言ではないこととなります。

これについて、お聴聞の会の皆様と昨年末に話し合わせて戴いた結果、本願寺出版社から出版された『漫画 歎異抄(たんにしょう)』の拝読を手掛かりに、私自身の人生に照らして、話し合わせて戴くことになったのであります。合掌。